



TRC MARC
分かち書き基準

第2版

2001. 3. 9

株式会社
TRC図書館流通センター

目 次

1.	総 則	P 2
2.	名 詞	P 3
3.	代 名 詞	P 1 7
4.	動 詞	P 1 8
5.	形 容 詞	P 1 9
(6.	形 容 動 詞)	P 1 9
7.	連 体 詞	P 2 0
8.	副 詞	P 2 1
9.	助 動 詞	P 2 2
1 0.	助 詞	P 2 3
1 1.	接 続 詞	P 2 4
1 2.	感 動 詞	P 2 4

1. 総 則

日本語は表記における分かち書きの習慣を持たないが、途中語からの検索の必要により、簡略な基準を設けることとした。

分かち書きには、単語、文節単位などがあるが、検索語として重要な名詞は分離し、活用語は付属語とあわせて1語とすることを基本においた。

文法用語および品詞は「広辞苑 第4版」(岩波書店)によった。
図書の表記にある中点等の記号は無視した。

原則としてこの基準に従うが、実績があるものについては、実績の方を重視する場合がある。

2. 名 詞

名詞は他の品詞から分離する。名詞はその構成によって、1語または2語以上に分離する。

2-1 接頭語

接頭語は原則として分離せず、そのかかる語とあわせて一語とする。

オカシ (お菓子)

ジュウコウギョウ (重工業)

ショモンダイ (諸問題)

ドウカイセツ (同解説)

ビセイブツ (微生物)

ミカイケツ (未解決)

ムイシキ (無意識)

→ : 2-3-4-4

→ : 2-5-7

→ : 2-6-1

→ : 2-6-3

→ : 2-6-4

2-2 接尾語

接尾語は原則として分離せず，そのうける語とあわせて1語とする。

キミタチ (君たち)
キセイトウ (規制等)
ケイザイガク (経済学)
ゴウリカ (合理化)
セイサンセイ (生産性)
チュウゴクゴ (中国語)
テンノウセイ (天皇制)
トウケイテキ (統計的)
ニホンジン (日本人)
ハナシカタ (話し方)
ヘンシンゴッコ (変身ごっこ)
ハウセイシ (法制史)
マンヨウコウ (万葉考)

→ : 2-3-4-5

→ : 2-5-7

→ : 2-6-1

→ : 2-6-3

→ : 2-6-4

2-3 複合語

2-3-1

漢字で3文字までで表記することができるものは、1語とする。

アミモノ (編物)
イナサク (稲作)
オシエゴ (教え子)
ケントウシ (遣唐使)
ショウコウギョウ (商工業)
セイキョウイク (性教育)
ゼイホウ (税法)
タベモノ (たべもの)
トウジキ (陶磁器)
トリシマリヤク (取締役)
ヒトビト (人々)
ハウテツガク (法哲学)
ユメハンダン (夢判断)

〈例外〉

カク／―― (核――)	カク／センソウ (核戦争)
ヒカリ／―― (光――)	ヒカリ／ツウシン (光通信)
ミズ／―― (水――)	ミズ／シゲン (水資源)

2-3-2

名詞に動詞の連用形が付き複合語を形成するとき、1語として扱う。

カナズカイ (かなづかい)
シュウダンアソビ (集団遊び)
タビグラシ (旅ぐらし)
テズクリ (手づくり)
モヨウアミ (模様編み)

2-3-3

助詞の「の」を含む複合語は慣用されていれば1語として扱う。

コノミ (木の実)
チャノユ (茶の湯)
ミノウエ (身の上)
オンナノコ (女の子)
トラノマキ (虎の巻)

⇒ 注) カワイイ／ネコ／ノ／コ (かわいい猫の子)

2-3-4

漢字で4文字以上で表記することができるものは、次のように扱う。

2-3-4-1

漢字2文字からなる単語2個 (またはそれ以上) から合成されるものは、2語 (またはそれ以上) に分離する。

カガク／キカイ (化学機械)
カガク／コウギョウ (化学工業)
カガク／センイ (化学繊維)
ニホン／ケイザイ／シンロン (日本経済新論)

2-3-4-2

漢字3文字からなる単語の前、または後ろに付く語は、合わせて1語とする。

ケイザイガクシ (経済学史)
ビセキブンガク (微積分学)
ホウシャカイガク (法社会学)
リョコウギョウホウ (旅行業法)

⇒ 注) 2-3-4-1か2-3-4-2か、迷う場合は、実績のあるものはそれに従うが適当な例がなければなるべく分離する。

コクブン/ガクカイ (国文学会)
コクブンガクカ (国文学科)
リョコウ/ギョウカイ (旅行業界)

2-3-4-3

漢字2文字からなる単語と、3文字からなる単語2個から合成されるものは、2語に分離する。

コウリツ/トショカン (公立図書館)
トウケイガク/ガイロン (統計学概論)
トショカン/キョウイク (図書館教育)

2-3-4-4

接頭語が、分離する単語2個 (またはそれ以上) にかかるときは、分離する。

ショウ/ドクワ/ジテン (小独和辞典)

⇒ 注) 新は、直接つづく単語にかかると、そうでない場合がある。

シン/ニホン/ブンガク/ゼンシュウ (新日本文学全集)
シンニホン/ブンガク/フッコク/シュクサツバン
(「新日本文学」復刻縮刷版)

2-3-4-5

接尾語が、分離する単語2個（またはそれ以上）をうけるときは、最後の語とあわせて1語とする。

ニホン／シャカイ／シュギ／ウンドウシ（日本社会主義運動史）

2-3-4-6

漢字5文字からなる単語で、意味的に分けることが困難なときは、分離しない。

チュウコウネンレイシャ（中高年齢者）

⇒ 注) 2-3-4-5か2-3-4-6か、迷う場合は、なるべく分離する。

トドウ／フケンリツ（都道府県立）

2-3-4-7

6文字以上からなるものは、以上の2-3-4-1から2-3-4-6の規定による。

ギフ／ツウゾク／トショカン（岐阜通俗図書館）

コクリツ／コウブンショカン／ネンポウ（国立公文書館年報）

シンケンポウ／チクジョウ／カイセツ（新憲法逐条解説）

2-4 数詞

数詞および序数詞は、助数詞も含めすべて1語とする。

イチ/ニ/サン/カゾエヨウ(1, 2, 3かぞえよう)

ハナコトバ/サンビヤクロクジュウゴニチ(花ことば365日)

ヒトフサ/ノ/ブドウ(一房の葡萄)

ナナ/ト/ニブンノイチ(7%)

イチ/コウコウ/キョウシ/ノ/ジンセイカン(一高校教師の人生観)

ニマンゴセンブンノイチ/チズ(2万5千分の1地図)

マルチプラン/サンテンイチ/ガイドブック(マルチプラン3. 1ガイドブック)

ダイニ/クシュウ(第二句集)

ダイニジ/セカイ/タイセン(第二次世界大戦)

2-5 外来語

外来語は、「新英和中辞典 第5版」(研究社)と「コンサイス外来語辞典 第4版」「コンサイスカタカナ語辞典第2版」(三省堂)等を典拠とする。

2-5-1

原綴が1語のもの、もしくは「・」(中点)でつながれているものは、1語とする。

アウトサイダー (o u t ・ s i d ・ e r)

ガイドブック (g u i d e ・ b o o k)

ハンドブック (h a n d ・ b o o k)

2-5-2

原綴がハイフンでつながれているものは、1語とする。

ツーバイフォー (t w o - b y - f o u r)

ノウハウ (k n o w - h o w)

ハードボイルド (h a r d - b o i l e d)

2-5-3

アルファベットの省略形は、個人名以外は1語とする。

エーエーエルエー／シリーズ (A. A. L A. s e r i e s)
シー／ダブリュー／ニコル (C. W. ニコル)

2-5-4

略語は分離しない。

エキスポ (EXPO=e x p o s i t i o nの略)
エトセトラ (e t c. =ラテン語 e t c e t e r aの略)
マスコミ (マス コミュニケーション
m a s s c o m m u n i c a t i o nの略)
パソコン (パーソナル・コンピュータ
p e r s o n a l c o m p u t e rの略)

2-5-5

上記以外は、原則として原綴に応じて分離する。

グッド／ライフ (g o o d l i f e)
ビジネス／レター (b u s i n e s s l e t t e r)

〈例外〉地名、動植物名は原綴にかかわらず1語とする。

サンフランシスコ (S a n F r a n c i s c o)
ニューヨーク (N e w Y o r k)
ブラックバス (b l a c k b a s s)

2-5-6

和製英語 (和製洋語) は、原則としてその由来した言語の原綴に応じて分離する。

ビデオ／ソフト (v i d e o s o f t)
フィルハーモニー (p h i l h a r m o n y)
シンボル／マーク (s y m b o l m a r k)

2-5-7

外来語と日本語との複合語は、原則として分離する。

ジョウホウ／センター（情報center）

データ／ショリ（data処理）

⇒ 注1) 外来語に日本語の接頭語, 接尾語がつくときは、あわせて1語とする。

ショウエネ（省エネ）

サービスギョウ（service業）

⇒ 注2) 日本語にかかる略語の外来語はあわせて1語とする。

プロヤキュウ（プロ野球…professionalの短縮形+野球）

2-6 固有名詞

2-6-1 人名

TRC人名典拠ファイルにより、スペース、カンマ、中点の位置で分離する。

セイ/ショウナゴン (清少納言 セイ ショウナゴン)
セン/リキュウ (千/利休 セン, リキュウ)
メイジ/テンノウ (明治天皇 メイジ テンノウ)
ラ/フォンテーヌ (La Fontaine ラ・フォンテーヌ)
ロイド/ジョージ (Lloyd George ロイド・ジョージ)

人名に対する接頭語・接尾語等は、原則として分離する。

コ/マキノ/トミタロウ (故牧野富太郎)
イマガワ/シ (今川氏)
チボー/ケ (チボー家)

人名につく接尾語のうち、「賞」「病」「抄」「記」「派」「流」「式」「法」「宗」等は、人名と分離しない。

これらは人名から派生して独立した語とみなす。

ノーベルショウ (ノーベル賞)
カワサキビョウ (川崎病)
チエコショウ (智恵子抄)
ヨブキ (ヨブ記)
カノウハ (狩野派)
オガサワラリュウ (小笠原流)
ニチレンシュウ (日蓮宗)

注) 姓名+賞は、人名と分離する。

エドガワ/ランポ/ショウ (江戸川乱歩賞)

また人名につく敬称，称号は分離する。

クラーク／センセイ（クラーク先生）

サイオンジ／コウ（西園寺公）

人名に対する接尾語は，後続の語とも分離する。

ゴッホ／テン／ズロク（ゴッホ展図録）

⇒ 注）女性名にかかる「お」および，名前の一部に伴う愛称の「ちゃん」「ぼう」は分離しない。

オハン（おはん）

フクチャン（フクちゃん）

ヤンボウ（ヤンボウ）

2-6-2 作品名

名詞の一般規則に従う。

⇒ 注1）2-3-3の規定により，オクノホソミチ（奥の細道）は一語とする。

⇒ 注2）固有のタイトルにつけて前作を意識した内容であることを示す「新」は分離する。

シン／タイコウキ（新太閤記）

2-6-3 動植物名

1語とする。

アフリカゾウ（アフリカ象）

イリオモテヤマネコ（いりおもてやまねこ）

接頭語・接尾語もあわせて1語とする。

バラカ（ばら科）

ライオンタチ（ライオンたち）

2-6-4 地名（国名等も含む）

1語とする。

アイズワカマツシ（会津若松市）

デンエンチョウフ（田園調布）

キノカワ（紀ノ川）

タニガワダケ（谷川岳）

ムサシノクニ（武蔵国）

⇒ 注）旧国名等を冠する島名は島名のみを地名と考える。

アマミ／オオシマ（奄美大島）

イズ／ノ／オオシマ（伊豆の大島）

漢字1字の接頭語・接尾語等はあわせて1語とする。「地方」「平野」「海峡」等、漢字2字またはそれ以上からなるものは分離する。

ハントイヘイヨウ（汎太平洋）
タイコク（タイ国）
フジサワニシ（藤沢西）
ウチモンゴル（内モンゴル）
オクニッコウ（奥日光）
トウキョウイキ（東京行き）
トウナン／アジア（東南アジア）
アイズ／チホウ（会津地方）
セキ／オンセン（関温泉）
チュウカ／ジンミン／キョウワコク（中華人民共和国）

地名から派生した語も同様に考える。

ヴェネチアハ（ヴェネチア派）
セトモノ（瀬戸物）
フランスゴ（フランス語）
ロシア／カクメイ（ロシア革命）
ショウキョウト（小京都）

⇒注) 行政単位を示す都，道，府，県，市，町，村，区に立，議会，役場などの語が続く場合は実績に従い一語とする。

オオサカシリツ（大阪市立）
タカツキシギカイ（高槻市議会）
ショウナンマチヤクバ（沼南町役場）

史，誌，役所，県人会は分離する。

オオサカ／シシ（大阪市史）
ネヤガワ／シヤクショ（寝屋川市役所）
サイタマ／ケンジンカイ（埼玉県人会）

地名から派生した略語は名詞の一般規則に従う。

ニチフツ／カイカン（日仏会館）

カントウ／コウシンエツ（関東甲信越）

2－6－5 団体名

名詞の一般規則に従う。

モリナガ／ハハ／オ／タタエル／カイ（森永母をたたえる会）

シュフ／ノ／トモシヤ（主婦の友社）

3. 代 名 詞

3-1 人代名詞

人代名詞は，1語とする。接尾語は含めて1語とする。

ワタクシ／ノ／ジンセイカン（私の人生観）

キミたち／ワ／ドウ／イキルカ（君たちはどう生きるか）

3-2 指示代名詞

指示代名詞は1語とする。助詞を伴った形で慣用されているものは，助詞とあわせて1語とする。

コレカラ／ノ／ドクショ（これからの読書）

ニンゲン／ワ／ドコマデ／キカイ／カ（人間はどこまで機械か）

⇒ 注) 指示代名詞とあわせて1語とする助詞とは，
「から」「まで」「だけ」「に」「ほど」「より」をいう。

4. 動 詞

動詞は、その語尾および後続する助動詞、助詞を含めて1語とする。

ネムラレヌ／ヨ／ノ／タメ／ニ（眠られぬ夜のために）
メイキョク／オ／タズネテ（名曲を尋ねて）
オモウ／コト／オモイダス／コト（思うこと憶ひ出すこと）

⇒ 注1) サ行変格活用 of 動詞を含む。
ただし「漢字2文字以上の名詞+する」は、分離する。

ワタクシ／ワ／シンズル（私は信ずる）
ゲキヘン／スル／アジア（激変するアジア）

⇒ 注2) 複合動詞は1語とする。

ゲンダイジン／ワ／アイシウルカ（現代人は愛し得るか）
ソダチユク／トシ（育ちゆく年）

⇒ 注3) 「夢見る」「年取る」のように1字の名詞と合わさった動詞は1語とする。

5. 形 容 詞

形容詞は、その語尾および後続する助動詞、助詞を含めて1語とする。

ヨイ／エ／ヨクナイ／エ (よい絵・よくない絵)

ワカケレバ／コソ (若ければこそ)

⇒ 注) 複合形容詞は、1語とする。

ナダカイ (名高い)

ヨミズライ (読み辛い)

(6. 形容動詞)

形容動詞は、名詞と助動詞「だ」またはその活用形と考える。

コドク／ナ／サンポシャ／ノ／ユメ (孤独な散歩者の夢)

7. 連 体 詞

連体詞は、1語とする。

アル／ハレタ／ヒ／ニ（ある晴れた日に）

⇒ 注)「その」と「我が」は、あとに続く1音または2音の語とあわせて1語とする。

ソノタ（その他）

ソノウエ（その上）

ワガヤ（我が家）

ワガハイ（我が輩）

ワガ／キョウド（我が郷土）

8. 副詞

副詞は、1語とする。

イカニ／イキルカ（いかに生きるか）

タッタ／ヒトリ／ノ（たったひとりの）

モット／トオク（もっと遠く）

⇒ 注) 「こう」「そう」「ああ」「どう」に動詞「いう」「する」「なる」が続くときは、合わせて1語とする。

ニホンゴ／ワ／ドウイウ／ゲンゴ／カ（日本語はどういう言語か）

9. 助 動 詞

9-1

助動詞は、前にある用言または助動詞から分離しない。
助詞がつづく場合は、あわせて1語とする。

イカニ／ヨムベキカ (いかに読むべきか)
ワスレラレタ／シソウカ (忘れられた思想家)

9-2 存在詞

助動詞のうち、存在詞とされる「だ」「です」「らしい」「ごとし」「ようだ」「そうだ」は前にある語から分離し、後につづく助動詞または助詞とあわせて1語とする。

シ／ノ／ゴトク／ツヨシ (死の如く強し)
アス／ワ／ケル／ダロウカ (明日は来るだろうか)
アソコ／デ／オドッテ／イル／ノワ／コドモ／ラシイ
(あそこで踊っているのは、子どもらしい)

⇒ 注1) 「らしい」は形容詞に注意する (助動詞と形容詞の区別は、「らしい」の前に「である」を入れて、意味がかわらなければ助動詞)。

カレ／ワ／コドモラシイ／アドケナイ／カオ／オ／シテ／イル
(かれは、子どもらしい、あどけない顔をしている)

⇒ 注2) 助詞「の」と、「だ」はあわせて1語とする。

ボク／ノダ (僕のだ)

⇒ 注3) 連体詞に「ようだ」が後続する場合は複合語をもって1語とする。

ドノヨウニ (どのように)

10. 助詞

助詞は、1語とする。

カガク/オ/ワレラ/ノ/テ/デ (科学をわれらの手で)
ツバサ/ヨ/アレ/ガ/パリ/ノ/ヒ/ダ (翼よあれがパリの灯だ)
ヒ/カラ/ゲンシリョク/マデ (火から原子力まで)
カガク/ト/シテ/ノ/ホウリツガク (科学としての法律学)
レキシ/ニ/オケル/カガク (歴史における科学)

以下の規定の場合は、前または後ろの語とあわせて1語とする。

10-1

用言または助動詞につづく助詞はすべてあわせて1語とする。

イキテ/アイシテ/エンギ/シテ (生きて愛して演技して)
アイシテモ/イイデスカ (愛してもいいですか)
ツマズイテモ/コロンデモ (つまずいてもころんでも)
ミタリ/キイタリ (見たり聞いたり)
ハル/オ/マチツツ (春を待ちつつ)
スキー/モ/ウマイシ (スキーもうまいし)
イチロウ/ヨ/シヌナ (一郎よ死ぬな)
ホトケサマ/ツテ/イル/カナ (仏さまっているのかな)

10-2

「いづれ」「だれ」「どれ」「どこ」「なに」につづく「か」はあわせて1語とする。

セイメイ/トワ/ナニカ (生命とはなにか)

10-3

前にある語から分離された1字の助詞のあとにつづく1字の助詞は、あわせて1語とする。

アメ/ニモ/マケズ/カゼ/ニモ/マケズ (雨にも負けず風にも負けず)
シロ/エノ/ショウタイ (城への招待)

1 1. 接 続 詞

接続詞は、すべて1語とする。

コウツウ/オヨビ/コウツウ/セイサク (交通および交通政策)

ソレデモ/モットモ/ステキ/ナ/クニ (それでももっとも素敵な国)

1 2. 感 動 詞

感動詞は、すべて1語とする。

アワレ/ヒトズマ (あわれ人妻)

ブキ/ヨ/サラバ (武器よさらば)

TRC MARC 分かち書き基準
第2版 2001年3月9日
株式会社 図書館流通センターデータ部
〒112-8632 東京都文京区大塚3-4-7
電話 03-3943-6639(ダイヤルイン)

本書の内容の一部、あるいは全部を複写複製(コピー)することを禁
じます。複写複製する場合は必ず小社の許諾を求めてください。